

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 7 月 2 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (7/2 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 2.0 m ³ /h	35.4	106.0 kPa abs	A系: 0.03 vol% B系: 0.03 vol%
		給水系: 約 3.5 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 5.2 m ³ /h	48.3	5.36 kPa g	A系: 0.14 vol% B系: 0.14 vol%
		給水系: 約 3.1 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 4.8 m ³ /h	50.5	0.23 kPa g	A系: 0.24 vol% B系: 0.23 vol%
		給水系: 約 3.8 m ³ /h			

*: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

<2. 使用済燃料プールの状況> (7/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.0
2号機	循環冷却システム	運転中	26.2
3号機	循環冷却システム	運転中	24.3
4号機	循環冷却システム	運転中	37

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

【2号機】・使用済燃料プールの構造材の腐食の進展・破損を抑制するため、1/19から塩分除去を行ってきた結果(4/12からはイオン交換装置による塩分除去を開始)、7/2、塩素濃度が約 1,350ppm(運転開始時点)から約 11ppmに低下したことを確認したことから、塩分除去を完了。

【4号機】・6/30 6:24 頃 使用済燃料プール代替冷却システム異常に関する警報が発生し、使用済燃料プール代替冷却システムが自動停止。その後、現場にて漏えいがないことを確認。なお、システム停止時のプール水温度は約 31℃で、プール水温度上昇率は 0.486℃/hと評価。同日、現場にて調査を行った結果、UPS(無停電電源装置)に問題があると推定されたことから、7/1 13:35 頃より、同UPSのバイパス作業を開始し、14:45 頃作業が完了したことから、15:07 頃に使用済燃料プール代替冷却システムのポンプを起動し冷却を再開。なお、冷却再開時のプール水温度は 42.9℃(仮設温度計の指示値)。今後、同UPSについては、交換を実施する予定。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
1号機	1号機タービン建屋	→ 2号機タービン建屋	6/29 17:16 ~ 7/1 9:57 移送実施
2号機	2号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/16 15:12 ~ 7/1 10:11 移送実施 7/2 10:11 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/26 10:14 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋	→ 仮設タンク	7/2 10:00 ~ 16:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (7/2 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/6/21 12:05 H1スキッド内のバルブ交換工事を行うために、セシウム吸着装置を停止。停止期間は約1ヶ月の予定。なお、バルブ交換工事期間中は第二セシウム吸着装置による処理を継続予定であり、滞留水処理、原子炉注水については問題ない。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H23/10/24 発電所構内の野鳥の森にある主変圧器用油を貯蔵する仮設タンク防油堤内に溜まった水の中に油膜があることを確認。その後、防油堤内の水の排水処理及び油の吸着処理に伴い、防油堤内の水位が低下したことから、水没していたタンクの状況を確認したところ、H24/6/25、9基中1基のタンク油面計下部から油が漏れていること、その他4基のタンクの油面が低下していることを確認。現在は、全てのタンクの油面計元弁を閉止したことで油漏れは止まっており、漏れていた油も防油堤内に溜まっている。また、防油堤内に溜まった水面に油膜があることを確認してから、これまでの期間にタンクより漏れた油量は、約 39 キロリットルと推定。他の箇所からの漏えいについても現在調査中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/6/18 9:54 5号機の補機冷却海水系について、6/18 から6/29 までの予定でストレーナ駆動部の修理のため、停止。これにより使用済燃料プール冷却系が停止するため、この期間中、使用済燃料プールの冷却は残留熱除去系により実施。
6/29 22:34 ストレーナ駆動部の修理作業が完了したことから、補機冷却海水系による冷却を再開(起動時の使用済燃料プール水温度 29.0℃)。
- H24/7/2 10:08 6号機タービン建屋地下1階で制御用圧縮空気系(IA系)の空気除湿器の点検が完了し空気除湿器の電源を投入したところ、IA系制御盤から白煙の発生を確認、直ちに除湿器制御盤の電源を切断した。10:21に消防署へ連絡。10:25、白煙が発生していないことを確認。10:26、盤内変圧器に焦げ跡があることを確認。その後、浪江消防署および富岡消防署による現場確認の結果、変圧器外観からの目視では原因等の特定には至らなかったため、明日当該変圧器を取り外し後、再度調査することとした。なお、本事象による外部への放射能の影響はない。

以上